

事業報告

平成29年度 教育事業

クリスマスセミナービギナー編

平成29年12月16日(土)～17日(日)

【対象】親子(小学2年生以下の子どもとその家族)

【場所】国立信州高遠青少年自然の家

～趣旨～

各家庭で行うクリスマス行事がより楽しく充実したものになるよう、家族間の交流を図りながら、クリスマスリースやケーキ作りに必要な知識・技術を身につけるきっかけとする。

～主催～

主 催：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

～活動日程～

12月16日(土)	13:30	14:00	14:20	14:30	16:30	17:00	17:20	18:30	20:00	21:30	
送迎車 JR伊那市駅前 12:50発 JR茅野駅東口 13:00発	受付	開会式	アイスブレイク	クリスマスリース作り!	休憩	夕飯	クリスマス会	①高遠チャレンジ ②アネレカム鑑賞	入浴	就寝準備	就寝
12月17日(日)	6:00	7:00	8:30	9:00	11:00	11:40					
起床・洗面 整理・清掃 朝のつどい 朝食・準備 部屋点検	オリジナルクリスマスケーキ作り!		閉会式	解散	送迎車 自然の家11:40発 JR茅野駅 12:20頃着 JR伊那市駅 12:30頃着						

～参加者～

42家族(大人:58名、小学生:47名、幼児:22名、未満児:5名) 計:132名

(長野県、山梨県、東京都、愛知県)

～活動トピックス～

活動Ⅰ クリスマスリース作り

講師:信州高遠青少年自然の家 職員

ベースとなる輪に、自然の家周辺で採れた自然素材をグルーガンや針金などで飾りつけた。ピラカンサの実、松ぼっくり、どんぐり、モミ・ヒノキの葉など用意された材料をふんだんに使用して、家族で協力しながら作品を仕上げた。個性豊かな作品が揃い、完成後に行った鑑賞会で他のファミリーの作品も楽しんだ。ドーナツ状のボール紙もミニリース用として提供し、そちらも好評であった。



活動Ⅱ 高遠チャレンジ・プラネタリウム鑑賞

講師：信州高遠青少年自然の家 職員

高遠チャレンジでは「どんぐり皿うつし」「シャトル投げ」「わりばしダーツ」「シャトルポイント」「片足バランス」の5種目を行い、親子で楽しんだ。種目ごとに表彰を行った。

また、星座観察会は天候が悪く星が見られなかったため、プラネタリウム鑑賞としたが、大変好評で午後8時過ぎにも1本プログラムを上映してたくさんの親子に見ていただいた。



活動Ⅲ クリスマスケーキ作り

講師：信州高遠青少年自然の家 職員

生クリームを自分達でホイップするところからスタートして、ケーキの土台に思い思いにデコレーションした。苺でサンクローズを作ったり、ビスケットに文字を書いたりして、ファミリーごとに自由に楽しみながらバラエティーに富んだケーキができあがった。完成後は全体で鑑賞会を行った。

～参加者の声～

- ・リースとケーキの制作をとおして、クリスマスの雰囲気親子で味わえてよかった。
- ・時間的にも内容的にも子どもが楽しめるプログラムでとても楽しかった。
- ・集団行動では、時間を守るということが大切だということを知ることができた。
- ・高遠チャレンジが広いスペースで、おもしろいチャレンジがたくさんあったので楽しかった。親子で楽しめたのがよかった。
- ・クリスマスリース作りは、いろいろなパーツが用意されていて、楽しく作ることができた。他の人の作品を見ることができたのも良かった。
- ・クリスマスリース作りでは、高遠の山にある松ぼっくり等の自然素材が多くて良かった。
- ・リース作りでは、子どもが考えながらいろいろと工夫を凝らし、アイデアをたくさん出してきてビックリした。ケーキ作りにおいては、切る、混ぜる、デコレーションするという工程を自分なりに考える姿を見ることができ、今後の生活に役立ちそう。

～成果と課題～

- 子どもの発達段階に合わせ、作りやすく（参加しやすく）かつ楽しめる内容になるよう心がけた。
- 今年度からの試みで、宿泊棟付のボランティアを配置した。利用者からは、「相談しやすい」「お兄さんお姉さんと親しくなれる」等の意見、ボランティアからは「参加者と親しくなれる」「使命感や達成感が高い」等の意見、自然の家としては「集合や移動のときに宿泊棟担当のボランティアがリーダーとして動ける」「指示や行動などをボランティア経由で伝達しやすい」「宿泊棟ごとの一体感が生まれた」等の実感があり、いずれもたいへんよい結果をもたらしたと思われる。
- 今年度より新たに小学校3年生以上の子どもとその家族対象の「クリスマスミスター」を開催し、年齢により参加者を分けた。ビギナー編を小学校2年生以下の子どもとその家族にしたため、ゆったりと楽しむことができたようだ。また進級し、内容の違うレベルアップした事業に参加できるという楽しみもできたという意見もあった。
- 参加者が130人を超え、全体的にアナウンスが聞き取りづらいという意見も出た。マイクアンプを使用したが多人数相手では聞こえづらかったかもしれない。担当者から宿泊棟付のボランティアに伝達し、各宿泊棟の参加者に連絡するなどスムーズな連絡方法を検討し、改善したい。
- 食事や入浴などが時間的にタイトであるという意見があった。未満児の弟妹がいる家庭では、移動に時間がかかっていた印象がある。食事や入浴をゆったりととれる時間の確保が必須である。